

中津祇園が開催されます！

担当：観光課 古賀（電話0979-62-9034）

中津祇園は疫病退散と無病息災を祈願する祭りで、大分県三大祇園の一つです。室町時代に地元の漁師によってささやかなお祭りが行われたのが起源と言われており、約600年の歴史を誇ります。

今年の中津祇園は7月24日（金）から7月26日（日）の期間で開催されます。

今年の中津祇園では、中津市の中津祇園、玖珠町の森・塚脇・北山田祇園、宇佐市の長洲葵祭・櫻岡神社天神祭、豊前市の八屋・宇島・松江祇園の垣根を超える初の取り組みとして誕生した、各地の踊車（おどりぐるま）共通のオリジナル舞踊曲「夏祇園」が披露されます。

また、昨年6年ぶりに復活し大きな賑わいを見せた「市民総踊り」が今年も開催されます。当日の飛び入り参加も可能ですので、ぜひご参加ください。

場所

闇無濱神社（下祇園）・
中津神社（上祇園）

日程

7月24日（金）「引き出し」

- ・ 祇園車町内まわり
- ・ 闇無濱神社お宮入り

7月25日（土）「朝車」

- ・ 御神幸（下祇園）・御巡行（上祇園）
- ・ 福澤通り歩行者天国「お祭り広場」
- ・ 市民総踊り
- ・ 祇園車共演
- ・ 練り込み

7月26日（日）「戻車」

- ・ 御神幸（下祇園）・御巡行（上祇園）
- ・ 福澤通り歩行者天国「お祭り広場」
- ・ 練り込み



大分県指定無形民俗文化財

闇無濱神社・中津神社



約600年の歴史と伝統

受け継がれし伝統が
勇壮華麗に城下町を駆け抜ける

中津祇園

Nakatsu Gion Festival 2026

令和8年
7月24日(金) 25日(土) 26日(日)

中津祇園とは

中津祇園は、10万石の城下町中津を代表する祭で、疫病退散と無病息災の祈願を目的に毎年7月に行われます。闇無濱神社を中心として行われる「下祇園」と中津神社を中心として行われる「上祇園」の二つの祇園祭が同日開催され、合わせて「中津祇園」と称されています。華麗な13台の曳車と、2基の御神輿が中津の城下町を御神幸・御巡行し、高べが張られた辻々では祇園車の舞台で華麗な民舞等が奉納されます。



下祇園

四番車

さくらまち

桜町踊車



明治28年(1895)6月に一階車として完成しました。昭和9年(1934)に、改造計画が総町会で決議され、着工2年後に完成しています。後軒見送りの鳳凰の彫刻と扁額には、明治28年の裏書が残っています。改造当時、桜町は豊前屈指の花街であったため、車の至る所に繊細で豪華な飾りが施されています。

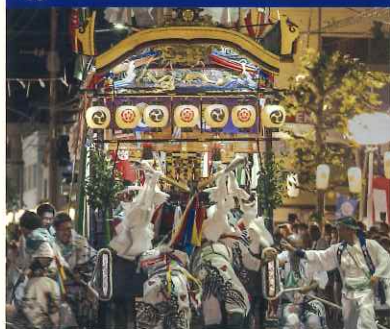


下祇園

先車

しもしょうじまち

下正路町舟車



天保3年(1832)の建造で、下小路浦在住の舟問屋播磨屋代吉と紙屋仁左エ門より寄進されました。中津祇園唯一の舟車で、御座船を祇園車に載せています。下正路町舟車の扁額には「天鳥丸」と鳥形文字で書かれていて、奥平家寄進の言い伝えがあります。「嘉永七年六月朔日 下正路庄屋」の裏書が確認されています。



下祇園

五番車

りゅうおうまち

龍王町踊車



昭和18年(1943)までは舟車であり、下祇園の先車(一番車)でした。朝車のお発ちと、戻車の練り込みでは、御神前で「松前音頭(舟山車引出歌)」が唄われます。大正14年(1925)に「新浦」の町名を「龍王町」へ改名し、昭和21年(1946)に舟車から踊車へ改造しました。他町の祇園車に比べて、折り屋根の棧の間隔が狭いのも特徴です。



下祇園

二番車

ほりかわまち

堀川町踊車



明治40年(1907)に日露戦争戦勝祝いとして、材料費62円で完成しました。現在の車は三代目で、欄間は二代目の車より受け継ぎました。初代の車は文政8年(1825)に藩主奥平昌高公より、二代目の車は慶応4年(明治元年、1868)に藩主奥平昌通公より拝領しました。二代目の車は明治40年(1907)に欄間だけを残して、福岡県田川地方に33円で売却されました。



下祇園

六番車

ぶんごまち

豊後町楽車



豊後町の車は中津祇園史上最初の祇園車であり、現在の祇園車の原型と言われています。昭和33年(1958)ごろを最後に祇園祭には参加していませんでしたが、青年有志の手により、平成25年(2013)、50数年振りに御神幸に復帰し、「影向楽」が復興しました。



下祇園

三番車

ひめじまち

姫路町踊車



明治17年建造の車の改造を明治36年(1903)に発起しましたが、日露戦争のために中断し、大正2年(1913)に再建を開始して大正3年6月22日に完成しました。昭和6年(1931)に一階車を二階車に大改装し、現在の姿となりました。その後、昭和32年、42年、平成5年、7年と修理・改装を行っています。平成25年(2013)に、台輪を新調しました。



闇無濱神社御神輿

つのぎまち

角木町



角木町は他の町内と違い、闇無濱神社の御神輿を担いで御神幸しています。神社の御輿蔵には、現在も三基の御神輿がありますが、担ぎ手の人数の都合から、いつからか一基で御神幸しています。平成10年に八坂の紋の入った御神輿が新調されました。戻車の夜、闇無濱神社に到着した祇園車、御神輿は、練り込みを行います。最後まで御神体を還さず、練り込みを行うのは、御神輿だけです。

24 引き出し

金

- 祇園車町内まわり 〈午前8時頃〜〉
(閭無濱神社・中津神社各町内周辺)
- 閭無濱神社お宮入り 〈午後8時30分頃〜〉
(閭無濱神社・下祇園 6台)

25 朝 車

土

- 御神幸(下祇園)・御巡行(上祇園) 〈午前5時頃〜〉
- 福澤通り歩行者天国「お祭り広場」 〈午後5時頃〜〉
- 市民総踊り 〈午後5時頃〜〉 (福澤通り)
- 祇園車共演 〈午後7時頃〜〉 (福澤通り)
- 練り込み 〈午後9時頃〜〉 (閭無濱神社・中津神社)

26 戻 車

日

- 御神幸(下祇園)・御巡行(上祇園) 〈午前8時頃〜〉
- 福澤通り歩行者天国「お祭り広場」 〈午後5時頃〜〉
- 練り込み 〈午後8時頃〜〉 (閭無濱神社・中津神社)

祇園福引き販売

販売期間 7月24日(金)〜26日(日)

閭無濱神社・中津神社

豪華景品が
当たる!!



中津祇園保存協議会

最新情報はQRコードより公式サイトをご確認ください。



上祇園 先 車



ふるおまち 古魚町踊車

大正10年(1921)に滋賀県長浜市の曳き山を参考に建造されました。二階は「入母屋葺式造り」と言われ、正面屋根上には鯨をのせています。正面懸魚には鳳凰、欄間には龍と獅子の彫刻が施されています。欄間は金の龍で、町内では宝物と呼ばれているそうです。初代の車は、福岡県豊前市宇島祇園の魚町に売却され、現役活躍中です。

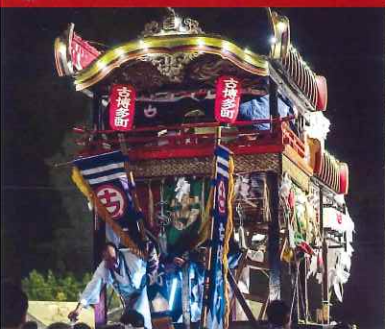
上祇園 五番車



しんぽかたまち 新博多町踊車

昭和5年(1930)の総町内会で新造を決議し、4,823円80銭(当時の新築家屋5軒分)で建造され、昭和6年に白木にて完成しました。昭和7年に塗り替えが完了しました。平成26年(2014)に全面塗り替えを行いました。二階は、京都祇園の影響を受けたもので、破風には金箔を使用し、丸みを持たせているのが特徴です。車の重心は、他の車に比べて中央部分に集中しています。

上祇園 二番車



ふるはかたまち 古博多町踊車

明治28年(1895)に建造されました。大工棟梁は中津の名匠と言われ、「蓬莱館」などを建築した賀来政市氏です。上八町の車の中で最もバランスの良い車だと言われています。総けやき作りで、台輪の彫りは諸町と同様です。初代の車は、豊後町の車にたいへんよく似ていたそうです。二代目の車は、大分県宇佐市長洲に売却されました。

上祇園 六番車



どのまち 殿町踊車

大正10年(1921)より5年間の歳月をかけて建造され、平成11年に総漆にて建造当時の姿へ復元されました。総けやき造りの車で、正面欄間には龍の彫刻、両側には虎、竹、獅子の彫刻が施されています。初代の車は福岡県豊前市八屋祇園の前川区へ売却され、近年まで活躍していたそうです。

上祇園 三番車



きょうまち 京町踊車

明治24年(1891)の建造で、可倒式の祇園車です。二代目の車で、初代の車は大分県玖珠町の森祇園に売却されました。鬼板は、中津祇園唯一の「獅子嘴」です。大正12年(1923)に大改造を行い、平成3年(1991)に車上部を新築しました。このとき、目釘一本に至るまで、寸法を記録したそうです。この年は白木で参加し、翌平成4年に塗りが完成しました。

上祇園 七番車



かたほまち 片端町踊車

二代目の車で、明治28年(1895)に建造されました。片端町の祇園車は「仏壇づくり」とも言われ、大量の装飾金具が用いられています。殿町の祇園車と兄弟車で、昭和3年(1928)に二階車へ改造されました。昭和62年(1987)に全面塗り替えおよび大修理が行われています。初代の車は、福岡県豊前市八屋祇園の下町区に売却されました。

上祇園 四番車



もろまち 諸町踊車

明治24年(1891)の建造です。三代目の車ですが、いくつかの部品は初代の車から受け継いでいます。可倒式の車で、町内在住の職人の手により建造されました。二代目の車は、明治23年に大分県玖珠郡玖珠町森祇園の上町中町組に売却され、その後大正初期に北山田祇園へ売却されました。また、先代の車は、福岡県豊前市八屋祇園の八幡町へ売却されたとの説もあります。

中津神社御神輿



しんうまち 新魚町

現在、新魚町は中津神社の御輿を担いでいますが、戦前までは祇園車が出されていました。昭和5年ごろに大分県宇佐市四日市に売却され、新造計画が何度かなされたようですが、戦争の混乱のため、やむなく中止されました。売却された車は、宇佐市四日市の桜岡八幡宮の天神祭にて、「新町」の山車として曳行されています。

令和8年
7月25日 土

朝 車

御神幸・御巡行図

● 下祇園
● 上祇園

下祇園 御神幸順

- 先 車/下正路町舟車
- 二番車/堀川町踊車
- 三番車/姫路町踊車
- 四番車/桜町踊車
- 五番車/龍王町踊車
- 六番車/豊後町衆車
(御神殿奉斎車)
- 御神輿(角木町)

上祇園 御巡行順

- 先 車/古魚町踊車
- 二番車/古博多町踊車
- 三番車/京町踊車
- 四番車/諸町踊車
- 五番車/新博多町踊車
- 六番車/殿町踊車
- 七番車/片端町踊車
- 御神輿(新魚町)

▲ 「辻踊り」箇所
高べ(たかしめ)の下で華麗な踊りが奉納されます。

- 見どころ① 八坂神社の御神殿から各祇園車に御神体を移す神事です。(二番車以降、およそ30分間隔)
- 見どころ② 下祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(四番車までおよそ30分間隔)
- 見どころ③ 上祇園の祇園車と御神輿が、風情あるまちなみを巡行します。
- 見どころ④ 上祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ⑤ 下祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ⑥ 下祇園と上祇園の祇園車13台と御神輿2基が一堂に会し、順次1台ずつ出発します。
- 見どころ⑦ 闇無濱神社の境内を下祇園の祇園車と御神輿が直線的に往復します。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ⑧ 中津神社の境内を上祇園の祇園車と御神輿が円を描きながら威勢よく練り込みます。(御神輿は22時まで終了。二番車以降、およそ10分間隔)

※「見どころ」の時間は目安であり、前後する場合があります。 ※最新情報は、公式サイトをご確認ください。



祇園車・御神輿の
現在地が分かる!

- ◆ コース表・祭礼日程の掲載!
- ◆ GPS機能搭載!
- ◆ お気に入り追加で最新情報をGET!

祭礼総合情報アプリ

「地車&太鼓」



App Store



Google Play



優艶な奉納芸能

舞踊朝車および戻車の御神幸・御巡行では、「高べ」の下に祇園車を止め、踊り等の優艶な芸能が奉納されます。これは「辻踊り」と呼ばれています。古来、悪霊などは通りの辻や町と町の境界から侵入してくるものと考えられていました。中津祇園においては、人々はそのような場所に高べを建て、御神幸で下界に越えになった祇園の神を一時的にお迎えし、悪霊退散していただくという意味で、芸能を奉納するものと考えられます。

令和8年
7月26日
戻車

御神幸・御巡行図

下祇園
上祇園

下祇園 御神幸順

- 先車/下正路町舟車
- 二番車/堀川町踏車
- 三番車/姫路町踏車
- 四番車/桜町踏車
- 五番車/龍王町踏車
- 六番車/豊後町楽車
(御神輿奉斎車)
- 御神輿(角木町)

上祇園 御巡行順

- 先車/古魚町踏車
- 二番車/古博多町踏車
- 三番車/京町踏車
- 四番車/諸町踏車
- 五番車/新博多町踏車
- 六番車/殿町踏車
- 七番車/片端町踏車
- 御神輿(新魚町)

▲「辻踊り」箇所

高べ(たかしめ)の下で華麗な踊りが奉納されます。

- 見どころ① 上祇園の祇園車と御神輿が、風情あるまちなみを巡行します。
- 見どころ② 下祇園の祇園車が威勢よく中津駅北口ロータリーを曲がります。(二番車以降、およそ30分間隔)
- 見どころ③ 上祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ④ 下祇園の祇園車が威勢よく交差点を曲がります。(二番車以降、およそ20分間隔)
- 見どころ⑤ 下祇園の祇園車が日ノ出町商店街内を御神幸します。
- 見どころ⑥ 上祇園の祇園車が停車位置で踊りを披露します。
- 見どころ⑦ 中津神社の境内を上祇園の祇園車と御神輿が円を描きながら威勢よく練り込みます。(御神輿は20時まで終了。二番車以降、およそ15分間隔)
- 見どころ⑧ 祇園車から八坂神社の御神殿に御神体を御遷した後、間無濱神社の境内を下祇園の祇園車と御神輿が直線的に往復します。(二番車以降、およそ40分間隔)

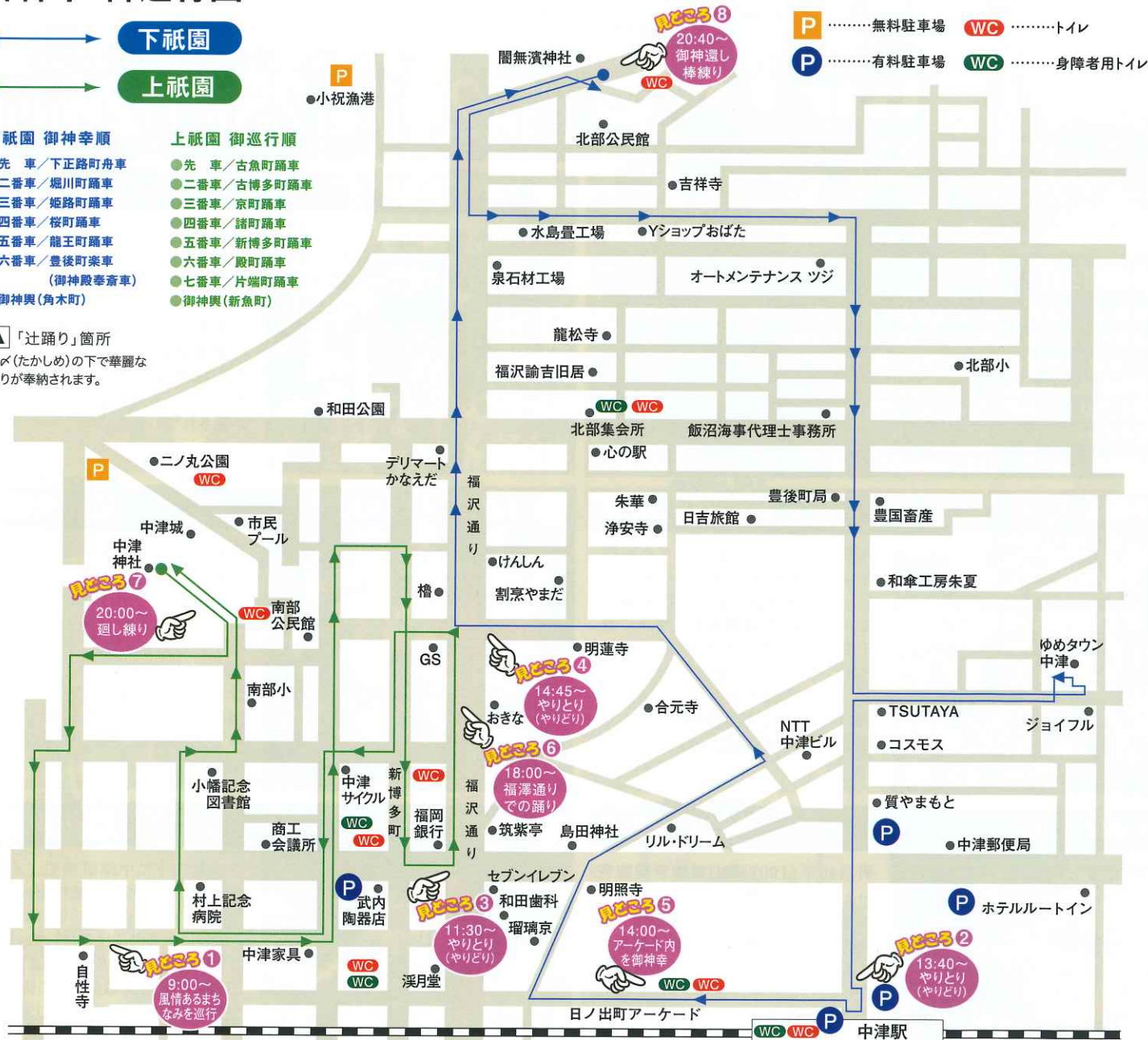
※「見どころ」の時間は目安であり、前後する場合があります。 ※最新情報は、公式サイトをご確認ください。

もっと中津のまちなみを
楽しみたい方に

福澤先生と
中津を歩こう!

やさしいまち歩きマップ

▼ マップを見る



豪快な「やりとり」

祇園車が舵を切って威勢良く交差点を曲がることを「やりとり」といいます。自動車のようなハンドルの付いていない祇園車をすばやく、かつ円滑に動かす工夫の一つに、「操船」の合図が挙げられます。その合図とは、「面舵」「取舵」「良候」(ヨーソロー)です。中津祇園の起源が漁村の祭であることから、祇園車を船と見立てて、操船の言葉が使われてきたと考えられます。



勇猛な「練り込み」

下祇園ではスピードが魅力の「棒練り」、上祇園ではダイナミックな舵切りが魅力の「廻し練り」が行われます。棒練りはスピードだけでなく、折り返す時の網の引き戻し方や、祇園車が止まらないように台輪の周囲に引き手が集まって押す等の工夫にも注目です。廻し練りの見所は、走りながら祇園車の方向を変える舵取です。舵取りの際に一番重要なことは、前を引っ張る綱と後ろの舵取りの呼吸を上手く合わせることにあります。